

STS Network Japan 2001 年度 秋のシンポジウム

『科学技術ジャーナリズムへの期待』

日時：11月23日（金）13:00-18:00（開場 12:30）

会場：東京大学先端科学技術研究センター13号館3階講堂

（最寄駅：小田急線・東北沢駅より徒歩7分、井の頭線・駒場東大前駅より徒歩10分なお、会場までの地図は先端研のホームページ <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/map/map-j.html> をご参照下さい）

参加費、事前の申し込みは不要です。

STS NJ の会員でない方もご参加いただけます。

パネリスト：浅川直輝氏（東京大学大学院）、上田昌文氏（「科学と社会を考える土曜講座」代表）、小林傳司氏（南山大学）、林衛氏（ユニバーサルデザイン総合研究所主席研究員・科学技術広報担当）
あと約2名検討中（交渉中）です。

近年、STS の議論にとくに求められていることに、「いわゆる非専門家が、解決に科学技術の専門知識を必要とする社会問題に、どのように主体的に対応していくことができるのか？」という問いへの模索があげられます。そのため先の夏の学校では主に未成年者を対象とした「理科教育」を取り上げました。そして今回の秋のシンポジウムでは、さらに「大人」のサイエンス・コミュニケーションとして大きな役割を果たす「科学技術ジャーナリズム」に焦点を当てて議論したいと思います。もちろん科学技術ジャーナリズムについては、これまでもさまざまな議論がありました。しかしとくに近年、STS 研究の進展と、科学技術ジャーナリズムの議論の対象となる事例（事件）の蓄積、さらには科学技術ジャーナリズムそのものへの危機感もささやかれる中で、あらためて議論の必要が生じてきています。科学技術ジャーナリズムについて議論すること、すなわち、どのような科学的（専門的？）知識を「欲しているか？あるいは欲していないか？」あるいは「知るべきか？」といった問い、それらを通して、「どのような情報を？」といった具体的な提案から、「社会の中で科学技術ジャーナリズムはどうあるべきか？」といった期待、さらにはもっと大局的な考察へと発展させることができると思われます。もちろん、ジャーナリズムの機構上「発信する側にも、どのような困難があるのか？」といったことをあわせて考える必要はあるでしょう。ともあれ、秋のシンポジウムではこの「科学技術ジャーナリズム」について、あるいは通して、さまざまな問題点を発掘・議論したいと考えています。みなさまもぜひ会場に足を運び、議論にご参加いただければと思います。

シンポジウムに関する最新情報は、NJ の Web ページ <http://stsnj.org/nj/schedule/sympo01a.html> でおこなっており、随時更新しております。ご利用ください。